

古代国家の歩みと東アジア世界

1 単元のねらい

国家がどのように成立していったのかという探究課題を考えることを通して、天皇中心の国づくりから律令国家成立までの国家の形成過程には東アジアとの交流が関係していることに気づき、大陸の文化や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられたが、律令制度が次第に崩れ、貴族の政治が展開されていったことを理解することができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 国家の仕組みが整えられた過程や天皇や貴族による政治が展開したことについて理解している。 東アジアの文化や制度を取り入れながら、仏教やその影響を受け、国際的な要素をもった文化が栄え、その後、文化の国風化が進んだことについて様々な資料を適切に選択して読み取ったり、説明したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の成立、摂関政治という歴史の流れについて、都の様子、農民の暮らし、東アジアの国々との関わりなどの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国家の仕組みが整えられ、天皇、貴族の政治が展開されたこと、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことに対する関心を高め意欲的に追究している。 探究課題について、話し合い活動や資料の読み取りに意欲的に取り組み、古代の政治の変化を追究している。

●学習改善につなげる評価 ○評定に用いる評価

	1	2	3	4	5	6	7	8
知識・技能	●	●	●	○	●	●		●
思考・判断・ 表現							●○	
主体的に学習に 取り組む態度	●						○	

3 単元構造図（全8時間） ☆基礎的・基本的な知識、概念や技能

単元名 古代国家の歩み と東アジア世界	単元学習前の生徒の認識 豪族の連合による大和朝廷が誕生し、日本が国家としてまとまってきた。その後、朝廷はどんな仕組みで国をつくっていくのだろう。
----------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------

第1時 聖徳太子の政治改革 【●主体的に学習に取り組む態度 ●知識・技能】

聖徳太子や蘇我氏は、どのような国づくりを目指したのだろう。

☆隋 ☆律令 ☆戸籍 ☆蘇我氏 ☆聖徳太子(厩戸皇子) ☆天皇 ☆冠位十二階 ☆十七条の憲法 ☆遣隋使 ☆飛鳥文化 ☆法隆寺の釈迦三尊像

聖徳太子は蘇我氏と協力し、冠位十二階や十七条の憲法により、家柄にとらわれず、天皇を中心とする国づくりを目指した。また、遣隋使によって中国の進んだ制度や文化を取り入れようとした。この後、天皇中心の国づくりはどのように進められていくのだろう。

第2時 東アジアの緊張と律令国家への歩み 【●知識・技能】

聖徳太子の死後、日本はどのような政治改革を進めたのだろう。

☆唐 ☆遣唐使 ☆朝廷 ☆中大兄皇子 ☆中臣鎌足 ☆公地・公民 ☆大化の改新 ☆白村江の戦い ☆天智天皇 ☆壬申の乱 ☆天武天皇

聖徳太子の死後、中大兄皇子と中臣鎌足は土地と人々を公地・公民として国家が直接支配する方針を示す政治改革（大化の改新）を行った。また、白村江の戦や壬申の乱を経て、天皇を中心とした中央集権国家がつくられていった。

第3時 律令国家の成立と平城京 【●知識・技能】

律令国家はどのような仕組みだったのだろう。 ☆大宝律令 ☆律令国家 ☆貴族 ☆平城京

日本は唐のような律令国家としての仕組みを整え、天皇中心の中央集権国家を成立させた。

第4時 奈良時代の人々の暮らし 【○知識・技能】

律令国家の下で、奈良時代の人々はどのような生活をしていたのだろう。

☆口分田 ☆租・調・庸 ☆墾田永年私財法 ☆荘園

律令制のもとで、農民に口分田を与えて税をとることで、都の生活は成り立っていた。一方で税が重すぎて逃げ出す者も出てきた。墾田永年私財法が制定されると、貴族や寺院は私有地を増やし、公地公民の原則が崩れていった。

第5時 天平文化 【●知識・技能】

奈良時代の文化はどのような特色をもっていたのだろう。

☆聖武天皇 ☆天平文化 ☆東大寺正倉院 ☆古事記 ☆日本書紀 ☆風土記 ☆万葉集

奈良時代の文化は、仏教や唐の文化の影響を受けた、国際的な文化だった。

第6時 平安京と律令国家の変化 【●知識・技能】

平安京に都が移って、政治や社会にはどのような変化があったのだろう。

☆桓武天皇 ☆平安京 ☆征夷大将軍 ☆最澄 ☆空海 ☆天台宗 ☆真言宗 ☆菅原道真

都を平安京に遷すことで、貴族や僧侶の政治への進出を断ち切り、天皇中心の政治を行おうとした。律令体制の立て直しのために、様々な政策が実行された。

第7時 摂関政治の時代 【○主体的に学習に取り組む態度 ●○思考・判断・表現】

藤原道長の台頭によって政治はどのように変化したのだろう。

☆藤原氏 ☆摂政、関白 ☆摂関政治 ☆藤原道長

藤原道長の摂関政治によって、貴族中心の政治となり、律令国家の仕組みが崩れていくことになった。

第8時 国風文化 【●知識・技能】

貴族の文化は、どのような特色があるのだろう。

☆宋 ☆高麗 ☆国風文化 ☆古今和歌集 ☆紫式部「源氏物語」 ☆清少納言「枕草子」 ☆浄土信仰 ☆平等院鳳凰堂

この時代の文化を国風文化と呼び、日本人の感情や日本の風土にあった文化をつくっていった。

単元学習後の生徒の認識

天皇を中心とした国づくりを進めるために、律令制度を取り入れ、律令国家を形成していった。しかし、負担は農民にかかり、律令国家の基本方針である公地公民は次第に崩れていった。律令制度の立て直しを進める中で、僧や貴族が権力をもち、藤原氏中心の政治が行われていった。

東アジアでの交流の中で、なぜ律令国家が成立し、変化していったのだろう。

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準・	◇資料 指導・援助
1 聖徳太子の政治改革	<p>聖徳太子や蘇我氏の政治について調べる活動を通して、聖徳太子や蘇我氏は天皇中心の国づくりを進めようとしたことに気づき、仏教の伝来と関連付けて飛鳥文化の特色を理解することができる。</p> <p>☆隋 ☆律令 ☆戸籍 ☆蘇我氏 ☆聖徳太子(厩戸皇子) ☆天皇 ☆冠位十二階 ☆十七条の憲法 ☆遣隋使 ☆飛鳥文化 ☆法隆寺の釈迦三尊像</p>	<p>1 前単元での学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大和政権は日本国内だけでなく、朝鮮半島にも勢力を伸ばそうとした。 ・中国や朝鮮の影響を受けた日本では、どのような政治がおこなわれたのだろう。 <p>聖徳太子や蘇我氏は、どのような国づくりを目指したのだろう。</p> <p>2 聖徳太子と蘇我氏が協力して行った政治を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家柄にとらわれない、能力のある人を役人に取り立てようと、冠位十二階を定めた。 ・仏教や儒教の考えを取り入れ、天皇中心の国にしようとして十七条の憲法を定めた。 ・中国の進んだ文化を取り入れようと、小野妹子らを遣隋使として派遣した。 <p>3 飛鳥文化について調べる。</p> <p>4 単元を貫く課題を設定する。</p>	<p>聖徳太子や蘇我氏が目指した国づくりや、飛鳥文化と仏教との関わりを理解し、天皇中心の国づくりについて関心をもっている。</p> <p>態度＝授業の様子 知技＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇十七条の憲法 ◇法隆寺 ◇竜門の石仏と法隆寺の釈迦如来像 ◇韓国の弥勒菩薩像と広隆寺の弥勒菩薩像 ◇歴史スキルアップ系図を読み取ろう 小学校でどのようなことを学習したのかを聞きくことで聖徳太子が行ったことを思い出せるようにする。</p>
		<p>東アジアでの交流の中で、なぜ律令国家が成立し、変化していったのだろう。</p> <p>聖徳太子は蘇我氏と協力し、冠位十二階や一七条の憲法により、家柄にとらわれず、天皇を中心とする国づくりを目指した。また、遣隋使によって中国の進んだ制度や文化を取り入れようとした。この後、天皇中心の国づくりはどのように進められていくのだろう。</p>		
2 東アジアの緊張と律令国家への歩み	<p>聖徳太子の死後の日本の政治改革について調べる活動を通して、大化の改新や白村江の戦い、壬申の乱を経て、天皇中心の中央集権国家が作られようとしていたことを理解することができる。</p> <p>☆唐 ☆遣唐使 ☆朝廷 ☆中大兄皇子 ☆中臣鎌足 ☆公地・公民 ☆大化の改新 ☆白村江の戦い ☆天智天皇 ☆壬申の乱 ☆天武天皇</p>	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子や蘇我氏は、天皇中心で、仏教も中心となる国づくりを進めた。 ・聖徳太子が亡くなった後も、天皇中心とした国づくりは出来たのだろうか。 <p>聖徳太子の死後、日本はどのような政治改革を進めたのだろう。</p> <p>2 聖徳太子の死後、国の政治がどのような様子になったか調べる。</p> <p><大化の改新></p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐が中国を統一し、律令などの制度で支配の仕組みを整え大帝国をつくった。日本も戦争の準備が整えられた。 ・蘇我氏による独裁的な政治に不満が高まった。 ・中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒し、政治改革を始めた。 ・豪族が支配していた土地と人を公地・公民とし、国家の支配のもとに権力の集中をめざした。 <p><大化の改新後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮半島で争いが起きる。百濟を助けるため日本は大軍を送ったが、唐と新羅連合軍に白村江の戦いで敗れる。 ・中大兄皇子は、西日本の守りを固めた。また、天智天皇となり、全国の戸籍を作るなど改革を進 	<p>大化の改新とその後の政治の展開について理解している。</p> <p>知技＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇大野城と水城 ◇天皇家と藤原氏との関係 ◇7世紀半ばの東アジア ◇都の移り変わり</p> <p>大化の改新とその後の政治改革に分けて板書し、時系列に気を付けて考えられるようにする。</p>

		<p>めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天智天皇の死後、壬申の乱がおき、天武天皇が即位した。 <p>3 本時の振り返りをする。</p>		
		<p>聖徳太子の死後、中大兄皇子と中臣鎌足は新しい政治の仕組みを作り、公地・公民として国家が直接支配する方針を示した。(大化の改新) また、百済を助けようと唐・新羅との白村江の戦いや、天智天皇のあとつぎ争いである壬申の乱を経て、唐や新羅に負けない国づくりを進め、天皇を中心とした中央集権国家を目指した。</p>		
3	<p>律令国家の成立と平城京</p> <p>奈良時代の都や全国の様子を調べる活動を通して、律令国家の支配の仕組みに気づき、律令国家の特色について理解することができる。</p> <p>☆大宝律令 ☆律令国家 ☆貴族 ☆平城京 ☆奈良時代 ☆国司</p>	<p>1 前時までの学習をもとに律令制度について説明し、本時の課題を設定する。</p> <p>律令国家はどのような仕組みだったのだろう。</p> <p>2 当時の社会の様子について、中央と地方に分けて読み取る。</p> <p><中央></p> <ul style="list-style-type: none"> ・唐のように律令を国の支配の中心にした。 ・唐のように天皇を中心とした国家をつくるための仕組みを整えた。 ・唐の長安にならって都(平城京)をつくった。 <p><地方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国には都から国司が派遣された。 ・福岡には大宰府が置かれ、外交、防衛にあたった。 ・地方と都を結ぶ道路も整備された。 <p>3 本時のまとめをする。</p>	<p>律令国家の仕組みについて、中央と地方に分けて理解している。</p> <p>知技＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇平城京 ◇五畿七道 ◇律令による役所の仕組み</p> <p>中央の様子と地方の様子に分けて板書することで、律令国の仕組みを理解できるようにする。</p>
		<p>日本は隋や唐のような律令国家としての仕組みを整えた。律で刑罰を、令で政治をおこなう決まりをきめた。天皇や貴族などを中心にして律令国家は運営され、地方には都から国司を派遣して、中央集権国家の仕組みを整えた。</p>		
4	<p>奈良時代の人々の暮らし</p> <p>奈良時代の農民の暮らしについて調べる活動を通して、当時の農民が様々な税によって苦しい生活を強いられていた事実に気づき、逃亡する農民によって律令制が崩れていくことを理解することができる。</p> <p>☆口分田 ☆租・調・庸 ☆墾田永年私財法 ☆荘園</p>	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・律令にもとづいて政治が行われた。政治に携わらない人々はどんな暮らしをしていたのだろう。 <p>律令国家の下で、奈良時代の人々はどのような生活をしていたのだろう。</p> <p>2 朝廷が戸籍を作った理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年ごとにつくられる戸籍で、良民と賤民を分けて登録した。 ・6歳以上のすべての人に口分田をあたえ、租という税をとった。 ・租・調・庸などによって都の生活を支えていた。 <p>3 農民の生活について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事を比べると貴族に対し質素だ。 ・兵役で防人として九州まで行く人もいた。 <p>4 墾田永年私財法について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・743年に墾田永年私財法が定められると、貴族や寺院などは私有地を広げた。私有地はやがて荘園と呼ばれるようになった。 <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>貴族と農民の食事や住居を比較して、奈良時代の人々の様子を理解している。</p> <p>知技＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇貴族と一般の人々の食事 ◇古代の戸籍 ◇奈良時代の人々の負担 ◇墾田永年私財法</p> <p>戸籍にどのようなことが書かれているのか資料の読み取りを丁寧に行う。</p>
		<p>律令制のもとで、農民に口分田を与えて税をとることで、都の生活は成り立っていた。一方で税が重すぎて逃げ出す者も出てきた。墾田永年私財法が制定されると、貴族や寺院は私有地を増やし、公地公民の原則が崩れていった。</p>		

<p>5 天平文化</p>	<p>関心のある寺院や仏像について調べる活動を通して、天平文化の特色に気づき、遣隋使や遣唐使の派遣が果たした役割について理解することができる。</p> <p>☆聖武天皇 ☆天平文化 ☆東大寺 ☆正倉院 ☆古事記 ☆日本書紀 ☆風土記 ☆万葉集</p>	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墾田永年私財法が定められ、公地・公民の原則が崩れたこの時代の文化はどんな特色をもっていたのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>奈良時代の文化はどのような特色をもっていたのだろう。</p> </div> <p>2 奈良時代の社会について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖武天皇は都に東大寺や大仏を建て、地方には国分寺や国分尼寺を建て仏教の力で国を守ろうとした。 <p>3 天平文化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教と唐の文化の影響を強く受けた。 ・遣唐使の派遣によって大陸の文化が伝わった。 ・東大寺の正倉院には、聖武天皇の使用した道具や楽器のほかに、遣唐使が持ち帰った品が納められている。 <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>奈良時代は大仏や寺を建て、仏教の力で国を守ろうとしていた。奈良時代の文化は、仏教や唐の文化の影響を受けた、国際色豊かな文化だった。</p>	<p>この時代の文化が仏教の影響、大陸との交流によって生まれたこと、天平文化の寺院や仏教について理解している。</p> <p>知技＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇東西の交通 ◇鑑真 ◇東大寺の大仏 ◇正倉院宝物</p> <p>東西の交通の地図をもとにして、外国とのつながりが深い文化だということに気付けるようにする。</p>
<p>6 平安京と律令国家の変化</p>	<p>都が平安京に移された後の変化をを読み取る活動を通して、律令国家を立て直そうとした動きがあったことに気づき、新しい仏教の登場や遣唐使の停止などの政治や社会で変化が起きたことを理解することができる。</p> <p>☆桓武天皇 ☆平安京 ☆平安時代 ☆征夷大將軍 ☆最澄 ☆空海 ☆天台宗 ☆真言宗 ☆菅原道真</p>	<p>1 奈良時代の終わりから平安時代初めの年表をもとに、本時の課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>平安京に都が移って、政治や社会にはどのような変化があったのだろう。</p> </div> <p>2 政治、社会という視点をもとに変化したことを調べる。</p> <p><政治></p> <ul style="list-style-type: none"> ・律令制度を立て直そうとした。 ・班田収授法が次第に行われなくなった。 ・重税から逃れようと、戸籍を偽る人も出た。 ・坂上田村麻呂が征夷大將軍となり、蝦夷を支配しようとした。 <p><社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最長が天台宗、空海が真言宗を開いた。 ・菅原道真が遣唐使停止を訴え、遣唐使派遣が行われなくなった。 <p>3 本時のまとめをする。</p> <p>都が平安京に移り、平安時代が始まった。朝廷は、律令制度を立て直そうとしたが、戸籍を偽る人も現れ、次第に班田収授法も行われなくなった。一方で、蝦夷を従わせようと坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命し、大軍を送った。また、新しい仏教として天台宗や真言宗が広まったり、菅原道真によって遣唐使の停止が進言されたりして、社会は変化していった。</p>	<p>平安時代の政治や社会の変化について理解している。</p> <p>知技＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇平安京の復元模型 ◇蝦夷の抵抗 ◇周防国戸籍</p> <p>菅原道真が遣唐使の停止を進言したことで社会にどのような変化が起きたのかと問いかけ、国風文化につながられるようにする。</p>

7 撰 関 政 治 の 時 代	<p>藤原の台頭によって変化した政治について読み取る活動を通して、藤原氏が政治の実権を握ったことに気づき、中央だけでなく、地方の政治も乱れ、律令国家の仕組みが崩れていったことを考察することができる。</p> <p>☆藤原氏 ☆摂政、関白 ☆撰関政治 ☆藤原道長</p>	<p>1 小学校までの学習を振り返り、藤原氏がどのように権力を握ったのか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・娘を天皇の后にし、摂政や関白として政治の権力を握った。 ・貴族が力をもつことによって、政治はどう変化したのだろうか。 <p>藤原道長の台頭によって、平安時代の政治はどのように変化したのだろうか。</p> <p>2 政治がどのように変化したのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤原氏が重要な役職を独占し、政治の権力を握った。 ・律令国家の仕組みがくずれ、土地に税を課すようになった。 ・国司の権限が強くなった。 ・国司が暴政を行うようになった。 <p>3 これまでの政治と比較してどのように変化したのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天皇中心の中央集権国家から、貴族や力をもつ者が国を支配するようになった。 <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>藤原氏が政治の実権を握ったことで、中央だけでなく、地方の政治も乱れ、律令国家の仕組みが崩れたことを考察し、表現している。</p> <p>思判表 = 話し合いの様子</p>	<p>◇貴族の屋敷 ◇皇室と藤原氏との関係 ◇藤原道長の栄華 ◇国司の暴政</p> <p>聖徳太子が目指した政治はどのようなものだったかと問いかけて、これまでの政治と比較してどのように変化したのか考えられるようにする。</p>
<p>藤原道長は娘を天皇の后にし、婚姻関係を結ぶことで政治の権力を握っていった。また、地方では国司の権限が強くなり、国司が暴政を行うようになった。政治の権力は天皇中心から貴族のような力をもつ者に移っていった。</p>				
8 国 風 文 化	<p>貴族の文化について調べる活動を通して、国風文化の特色に気づき、遣唐使停止によって国独自の文化が作られようとしていったことを理解することができる。</p> <p>☆宋 ☆高麗 ☆国風文化 ☆仮名文字 ☆古今和歌集 ☆紫式部 「源氏物語」 ☆清少納言 「枕草子」 ☆浄土信仰 ☆平等院鳳凰堂</p>	<p>1 前時までの振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族中心の政治が行われるようになった。 ・遣唐使が停止された。 <p>貴族の文化はどのような特色があるのだろうか。</p> <p>2 文化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遣唐使が停止し、唐風の文化から日本の風土や生活にあった文化が生み出された。 ・漢字から、日本語の発音を表せるように仮名文字ができた。 <p>3 本時のまとめをする。</p>	<p>遣唐使の停止によって、日本の風土や生活に合った日本風の文化が生まれたことを理解している。</p> <p>知技 = 資料読み取りの様子</p>	<p>◇11世紀の東アジア ◇平等院鳳凰堂 ◇源氏物語絵巻 ◇漢字から仮名文字への変化</p> <p>単元のまとめの時間を位置付ける。</p>
<p>遣唐使の停止によって、唐との関係が変化した。唐風の文化を基にして、日本の風土や生活、日本人の感情にあった国風文化が栄えた。</p>				
<p>4 単元のまとめをする。</p> <p>天皇中心の国家を目指し、政治が行われてきた。隋や唐の優れた文化を取り入れながら律令制度を整え、中央集権国家を作ってきた。しかし、律令制度下における人々の暮らしは厳しく、班田収授法などが成り立たなくなっていった。律令制度の立て直しも難航し、次第に貴族に権力が集まり、貴族中心の政治へと変化していった。この後には、武士が登場することを小学校で学習した。どのように政治が変化していくのだろうか。</p>				